

船橋市立医療センターNews No.35

●発行年月日/平成30年1月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 丸山 尚嗣
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>



「雪山」 当院職員撮影



平成30年を迎えて

船橋市立医療センター院長 丸山 尚嗣

新年おめでとうございます。本年も患者さんに信頼される医療を目指し、全職員が協力してチーム医療を推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

昨年10月に、第56回全国自治体病院学会が幕張にて開催され、当院は、全国で2番目に多い32演題の発表をしました。今回の特集3ページに発表演題の一覧を示しています。

どの発表も、より良い医療を患者さんに提供するために各部署で日々取り組んできた成果を立派にまとめています。学術的な医学の進歩のみならず、患者さんと向き合う医療の世界も日々進歩・向上していく必要があります、その努力が少しずつですが確実に実を結んでいます。さらに他病院の良い取り組みを学んで、当院の診療・運営に活かしていきたいと思えます。

上の写真のように冬の晴れわたった日の雪山は美しく、白銀世界を眼前にすると思わず息を飲むほどです。しかしひとたび天候が荒れ吹雪になれば、人間の命を軽く吹き飛ばしてしまうほど自然の力は強大です。天候を読んで予め上手に嵐を回避する、また吹雪の中にあっては全ての知恵と装備と技術をもって無事生還することが肝要です。私たちは、病気という人生の悪天候に対して、できれば回避（病気を予防）し、病気になった時には最新の医療知識と治療技術を駆使して軽快治癒を目指す努力を惜しみません。嵐の後には再び美しい景色を穏やかに眺めたいものです。

目次

特集 全国自治体病院学会in千葉に参加……………	2~3	医療を学ぼう! in図書館/公開医療講座/次回のお知らせ…	6
優秀症例報告賞/優秀演題賞/JADEN 22nd AWARD …	4	救命救急センターの現場から/成果発表会/職員募集……	7
当院で働く人々/研修医のつづき……………	5	外来担当医師一覧表……………	8

全国自治体病院学会 in千葉 に参加

第56回全国自治体病院学会が平成29年10月19日・20日に幕張メッセで開催されました。今年度は千葉県が開催地ということで、県内の自治体立病院が協力して学会を運営しました。当院は栄養管理分科会の幹事病院として携わったほか、各分科会でも一般演題の座長を務めたり、運営スタッフとして活動したりと多くの職員が学会運営に貢献しました。

また、一般演題は32題を提出し、全国から集まった自治体立病院関係者を前に発表しました。この演題登録数は学会参加病院の中でも2番目に多い数です。今年度からモニターを使用した発表形式に変わったことで、今までよりも多くの聴衆が一つの演題に集まり、様々な質問が発表者に寄せられていました。



栄養分科会幹事病院として運営に携わって

全国自治体病院学会の千葉県開催は昭和49年に銚子で行われてから実に43年ぶりであり、またとない貴重な経験をしました。幹事病院の役割は、その病院の職員が責任者となって、学会の方針に沿った職種ごとのテーマを選定し、講演会やシンポジウムなどの演者や座長の選出や調整を行います。また、全国の病院職員に対しては発表演題を募集し、それを審査して採択を行います。さらに発表内容別に分類し、それぞれに座長を県内施設より選出しました。このことにより、学会での知の習得だけでなく、様々な調整により多くの方々との関係を持つことができたことが大きな収穫でした。今後も「事業は人なり」という言葉があるように、人との繋がりを活かして当院がより良い病院となるように努めていきたいと思えます。



栄養分科会長
高原 参与



特別講演座長
丸山 院長

栄養管理室長 松原 弘樹

一般演題発表

～発表者の感想～

今回、初めて自治体病院学会に参加し2演題を発表しました。会場は病院で活躍している多職種の人で溢れ、思いの発表が行われていました。さながら当院で毎年行っている各部署の活動を全員の前で披露する「成果発表会」の大型版のような印象を受けました。病院の機能、規模による違いは様々ですが、普段一生懸命やっているという自負からか、どこの発表にも多分に自院自慢が入っていてその分各病院の特徴がよく分かる活気のある学会でした。私も当院の自慢をしてきました。 副院長 多部田 弘士

医事課 及川 知子

今回学会への参加は、とても良い経験となりました。他施設での様々な取り組みや研究は刺激になり、当院で活用できることは行っていきたいと考えています。すべての子どもが健やかに育つ社会、安全で安心な分娩を目指し、「当院で妊婦健診、分娩をしたい」と多くの方々に言っていただけのように、今後も頑張りたいと思います。

リスクの無い方の分娩も行っておりますので、お待ちしております。

看護局 川俣 照子

この度の学会では、医師事務作業補助者が診療科医師へ放射線検査読影レポート確認チェックを連絡する体制を構築したことにより、読影レポートの確認漏れによる医療事故を未然に防ぐことができ、医療安全面においても非常に有用であるという内容を発表しました。これからは医師の事務作業の負担軽減はもとより、医療安全の観点でも一層精力的に取り組んでいきたいと思えます。

リハビリテーション科では、近年取り組んできた活動（土曜稼働・SCU・嚥下内視鏡検査）について、3名で発表しました。発表に向けてデータを集めて分析したりまとめた中で、漠然と感じていたことが明確になり、新たな課題に向けて意識を高めることができました。発表当日は、多数の質問を受け、関心の高さがうかがえました。また、今後当院でも試みたいと思っている活動について、他病院の発表を聞くことができ、収穫の多い学会でした。

リハビリテーション科 新井 千絵

～一般演題発表者～

分科会	タイトル	演者
看護・看護教育	A病院の合併症を有する妊婦の統計と助産師の課題	川俣 照子
	急性疾患・慢性疾患・がん看護分野の専門・認定看護師による看護実践に役立つハンズオンセミナーの実践報告	渡邊 理恵
	外来化学療法室の看護の質向上に向けての取り組み ～ワークライフバランスを考慮した非常勤看護師対象の学習会開催～	小林 恭子
	効果的な入院オリエンテーションに向けての取り組み～説明用DVDを作成して～	三浦 陽子
	手指衛生推進の実践的取り組みについて～突撃！手指衛生ラウンド～	宮澤 邦子
	緩和ケア病棟におけるパートナーシップ・ナーシング・システムの導入 導入から6か月後の成果	藤倉 妙子
	小集団活動「班体制」を導入し取り組んだ3年間の評価と課題	村山美佐子
	新人看護職員研修到達目標の達成度を向上させる取り組み	大木 千春
臨床医学	「顔の見える連携」推進に向けての試みー「船橋地域医療介護連携研究会」の立ち上げと活動ー	多部田弘士
	「顔の見える連携」推進に向けての試みー診療科部長・病棟師長を巻き込んだ医療機関訪問の実施ー	多部田弘士
栄養	診療報酬改定後のがん疾患栄養食事指導件数の変化	松原 弘樹
リハビリテーション	当院における休日稼働の取り組みと現状	梅田 真理
	当院における嚥下内視鏡検査実施への取り組み	新井 千絵
	当院SCUにおけるリハビリテーションの取り組み	福手 郁代
地域医療・連携・福祉	ストーマケアに不安を持つ患者・家族への退院後訪問指導 ー急性期病院から退院後訪問指導を行った患者の一症例ー	樋口 由加
	市立図書館と連携した医療情報提供の取り組み～現状報告と今後の課題～	石川 晴子
臨床検査	抗生物質の投与により著名な凝固時間延長を来した1症例	奥野 真弓
	感染制御への分かりやすい情報提供へ	諏訪 直生
	臨床検査情報紙「けんさかNOW」発行の試み	三末 高央
放射線	除脂肪体重法における脂肪組織領域の閾値設定範囲決定についての検討	田村 浩崇
	3DCT画像を利用した除脂肪体重測定法における臨床的有用性の検討	石田 航
	除脂肪体重法に対する総体脂肪量の簡易的計算法と3DCT法の検討	坂入 理恵
	EPI-FLAIR法によるSASの撮像条件の検討	折田 佳子
	頸部領域のSE型EPI Diffusionにおける脂肪抑制法の基礎検討	田邊敬一郎
薬剤	当院における副作用情報管理業務～約3年経過して～	小白井直子
	当院における後発医薬品切替の推移と今後の展望	石橋 拓也
経営・管理	船橋市立医療センターにおける高度医療を提供する急性期病院としての取り組みと効果	鶴澤 美紀
	診療材料費削減の取り組みについてー特に同種同効品提案からの削減ー	鈴木 章司
	当院における医師事務作業補助者の退院サマリー代行入力への取り組みと評価について	及川 知子
	医師事務作業補助者の活用例～放射線検査読影レポート確認チェック～	及川 知子
	看護師確保のための取り組みについて	滝野 正悟
	業務調整員の視点で見たDMATのチームビルディングについて	新村 岳人

～一般演題座長を務めて～

デジタル世代にふさわしい鮮やかな大画面モニターを構え、新しいスタイルで臨んだ今年的一般演題ポスターセッション。座長は討論を盛り上げ、しかも全体を時間通りにまとめられるかどうか腕の見せどころです。意気揚々と担当セッションをこなした後は、採点・報告のひと仕事。しかし、いずれの演題も甲乙付け難く、悩みは尽きません。この経験はきっと何かの役に立つと信じ、参加された皆さんをはじめ関係の方々へ感謝しつつ座長バッジを外しました。 薬剤局 市原 幸洋



当院職員の発表の様子

私の担当したセッションはMRIの撮像の仕方や安全性の教育方法などの演題でした。日常の検査において、どうしたら検査時間を短くすることができるのか、どうしたらもっと良い画像が撮れるのか、より安全に検査を行うにはどうしたらいいのかといった普段の工夫を研究し発表している演者が多く、「良い検査を行いたい」という意思が強く感じられる発表内容ばかりで、初めての座長でしたがとても刺激を受けました。 放射線技術科 折田 佳子

幕張で開催された全国自治体病院学会に参加し、その中で臨床検査分科会一般演題生化学輸血分野の座長を務めました。担当したセッションは、検査データの評価や症例報告などどれも内容の濃いものでした。短い時間の発表であったためかタイムオーバーすることもあり、座長としては時間をコントロールすることに集中しました。今回、このような貴重な体験をさせていただき大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。 臨床検査科 三末 高央

今回学会に参加して学んだ他の病院の良いところ等を吸収し、病院全体としてもまた各々の部署でも今後の取り組みに活かしていきます。

小林照宗消化器内科副部長が優秀症例報告賞を受賞!!

当院の消化器内科小林副部長の論文が日本脾臓学会誌第31巻2016年の優秀症例報告賞を受賞しました。

小林副部長は、「AFP産生脾mixed acinar-neuroendocrine carcinomaはまれな疾患で、これまで十分にまとめられた報告はありませんでした。今回、これまでに報告のあった本邦27例についてまとめ、脾臓学会誌に論文投稿しました。この疾患は術前に確定診断することは難しく、本症例も手術を行い、病理で診断されました。消化器内科医としてこのような症例報告ができるのは外科と病理の先生方のおかげであると日々感謝しています。今後も日常診療、学術分野ともに向上心を持ち続けていきたいと思っています。」と、今後に向けて意欲を述べました。



黒岩信行循環器内科医長が優秀演題賞を受賞!!

平成29年7月13日～15日にシンガポールで開催された第21回Asia Pacific Society of Cardiology Congress (アジア太平洋心臓病学会学術集会)で、循環器内科黒岩医長がポスター部門で優秀演題賞を受賞しました。

これを受けて黒岩医長は次のように語りました。「本学会はアジア各国から循環器内科医が集結する学会であり、世界共通の最新テーマの議論が行われ、また、各々の国の事情に合わせた様々な演題が採択され発表されていました。私は、Risk Factors of Poor Prognosis for Patients Undergoing Therapeutic Hypothermia after Cardiopulmonary Arrest (心肺蘇生後の低体温療法を施行した患者の予後不良因子)というタイトルで発表しました。当院での治療実績を基にした演題が国際学会で認められたことは大変光栄に思います。今後もさらに多くの患者さんの救命に尽力したいと考えています。また、平成32年には本学会が日本(京都)で開催されることが会期中に決定され日本医療界が更に国際化していくことを大変喜ばしく思います。」



曾根晶子慢性疾患看護専門看護師(副看護師長)がJADEN 22nd AWARDを受賞!!

平成29年9月16日～17日に福岡で開催された第22回日本糖尿病看護教育・看護学会学術集会において、曾根副看護師長がJADEN 22nd AWARDを受賞しました。

この受賞を受けて曾根副看護師長は、「研究テーマは『外来糖尿病患者のフットケアにおけるセルフマネジメント評価尺度の開発ー糖尿病合併症管理料によるエビデンス集積に向けてー』で、平成22年より日本糖尿病看護教育・看護学会の研修推進委員会の委員会活動としてきました。まずは、私自身がこの尺度を週3回の糖尿病看護外来でフットケアに活用し、糖尿病患者さんが元気に自分の足で歩くことができるように療養支援したいと思っています。今後は、臨床で多くの看護師に活用していただき、看護師の行うフットケア実践のエビデンスとして、糖尿病患者さんの足病変の予防、足切断率や足潰瘍発症率の軽減につながるように、さらに尺度を洗練していきたいと思っています。また、尺度開発にあたり、共同研究者と研究協力者と患者さんと共同研究施設の皆さんに、私をいつも温かく見守り支援していただいている当院の看護局に心より感謝しています。」と語りました。



※この「医療センター News」のバックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます。

～治験（臨床試験） コーディネーターの仕事～

皆さんが一度は飲んだことがあるであろう「薬」。新しくすり、すなわち新薬を誕生させる最終段階で、患者さんの協力を得て行われる臨床試験のことを『治験』と言います。くすりとしての効果があるのか、安全に使用することができるのか、使いやすい形になっているのかなどが治験によって最終的に確認されます。



「治験（臨床試験）コーディネーター」はCRC（Clinical Research Coordinatorの略）とも呼ばれ、治験を安全にそして円滑に行うために、治験全体の進行をサポートする専門のスタッフです。治験の開始から終了までの事務的業務も担っています。

当院では外部の業務委託会社のCRCと、一部の治験では院内の薬剤師、看護師がCRCとして業務を行っています。治験に安心してご参加いただけるよう、治験に関する専門的な知識を持ったCRCがサポートします。治験に関して疑問、またご興味がありましたら、気軽にご相談ください。

治験管理室 日置麻衣子 肥田亜紀 畠山恵美子 稲垣雅行

具体的な業務

- ・ 患者さんへの治験内容の説明補助
- ・ 治験に参加いただいている患者さんとそのご家族のサポート
- ・ 患者さんの通院スケジュール管理
- ・ 患者さんの体調の確認・治験薬の服用状況の確認
- ・ 医師を始めとする病院内の関係者と製薬会社（治験依頼者）の間の調整

研修医の つぶやき



初期臨床研修医1年 小寺 輝

4月の勤務開始から、早いもので半年が過ぎました。外来・病棟にて患者さんの様々なご病気の経過に向き合いながら、日々の成長を実感しています。

私たち初期臨床研修医の仕事は様々で、従事する診療科によって内容も大きく異なります。外来にて患者さんの診察を担当することもあれば、病棟にて検査や処置を行うこともあります。それぞれの科での研修期間は2か月間ですので、同期との情報共有が欠かせません。切磋琢磨しながらも、協力し合って診療業務を行っています。

先日はそんな同期11人で九十九里への旅行の機会をいただき、新鮮な海産物を使った漁師料理と、コテージでのバーベキューを堪能してきました。普段は真剣に向き合っている同期の知らない一面も見ることができ、より一

層親睦が深まりました。

私たちは医師として働き始めたばかりですが、社会人としてもまだまだ新人の身です。そんな私たちの事を一から懇切丁寧に指導して下さる先生方の下、患者さんの診療に携わっています。まだまだ至らぬ点もあるかと思いますが、今後も真心を込めて皆さんと関わっていきたいと思っています。今後も私たち初期臨床研修医をよろしくお願いします。



当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。

医療を学ぼう！ in 図書館

当院では、船橋市西図書館と連携して、市民の皆さんに医療に関する情報を提供しています。医療情報コーナーには当院図書室司書が選書した書籍を配置し、がんの冊子等もお持ち帰りいただけます。また、毎月医師と医療スタッフによる医療講演会と医療相談会を開催していますので、ぜひご参加ください。身近な図書館で、医療、健康を学びましょう。最近の講演会の様子をご紹介します。

第13回 10月「肺炎を予防しよう！」 呼吸器内科部長 中村祐之

高齢者の肺炎はとて多くなっており、命に関わることもあります。定期接種となっている予防注射について話があり、ぜひ接種しましょうと呼びかけました。

第14回 11月「よくわかる糖尿病の話」 代謝内科部長 岩岡秀明

身近な病気である糖尿病の基礎から、注意したい合併症について話がありました。日常生活の留意点の話には、参加者から「これから実行していきたい」とのお声をいただいています。

第15回 12月「ためになる脳卒中のはなし」 脳神経外科部長 内藤博道

脳卒中は、発症してから治療までの時間がとても重要です。脳卒中の標語、「FAST」を紹介し、症状があったらすぐに行動しましょうと繰り返し話しました。



10月の講演会

医療講演会予定 14:00~15:00 申し込み不要 当日先着50名

日 程	演 題	演 者
1月18日(木)	乳がんの診断と治療	乳腺外科部長 松崎弘志
2月15日(木)	膝が痛い!変形性膝関節症からリウマチまで	整形外科部長 高瀬 完
3月17日(土)	消化器がんに対する手術療法	消化器外科部長 夏目俊之

※予定は変更する場合がありますので、広報ふなばしや西図書館HP等でご確認ください。
講演会の後、申し込み制で相談会を行います。西図書館にお申込みください。

—お申込み先— 西図書館 船橋市西船1-20-50 TEL 047-431-4385

医療連携・患者支援センター 石川 晴子

第32回 公開医療講座



「花粉症のはなし ~これまでの治療とこれからの治療、免疫療法について~」を開催しました



平成29年10月12日(木)に市民文化創造館(きららホール)にて、木村健太郎耳鼻いんこう科医長を演者とした公開医療講座を開催しました。講演では、花粉症を発症するメカニズムや診断方法、自分で出来る対策や最新の治療方法(アレルゲン免疫療法)について、わかりやすく解説を行いました。木村健太郎医長は、「花粉症は必ずしも治療しなければならない病気ではありません。しかし、鼻づまりや繰り返すくしゃみなどの症状は大きなストレスとなり、生活に悪影響を及ぼすこともあります。少しでも煩わしさを感じたら、お気軽に耳鼻いんこう科へご相談ください。」と語りました。ご来場いただいた方々の中には、実際に花粉症を発症している方も多く、皆さん熱心に話を聞いていました。

公開医療講座 次回のお知らせ

第33回 白内障とその治療について

日時 2月1日(木) 14:30~15:30

会場 市民文化創造館(きらら)

参加費 無料

講師 小林晋二(眼科部長)

定員 当日先着190人

問い合わせ 医事課

病院ボランティア(患者さんの案内や図書の整理など)を募集しています。詳しくは、医事課まで

救命救急センターの現場から ～食中毒～

飲食物が原因で発症する健康障害は、原因物質が何であれ、どのような症状であれ、全て食中毒に含まれます。原因は大きく3つに分けられます。1つ目は微生物（ウイルスや細菌）、2つ目は自然毒、3つ目は化学物質になります。

症状としては腹痛、下痢、嘔吐といった消化器症状で発症することがほとんどです。これらの症状はウイルス感染による急性胃腸炎の症状と類似しているので症状だけで鑑別することは難しいのが実際です。微生物による食中毒は発熱を伴うこともあります。原因物質によっては痺れや呼吸困難などの神経症状が出る場合もあります。

微生物ではノロウイルスが原因であることが圧倒的に多く、3日程度で改善してきます。細菌性では黄色ブドウ球菌、サルモネラやO157で有名な腸管出血性大腸菌などがあります。自然毒ではフグ毒、きのこ毒などでしょうか？これらの物質との接触があったとか摂取があったとかの情報が必要になります。

一番大事なことは消化器症状による脱水の程度になります。通常、水分が十分摂れているか、尿は出ているか、グッタリしていないか、循環は落ち着いて



いるかなどで判断します、水分とは言ってもただの水やスポーツ飲料などではなく、経口補水液（OS-1など）を少しずつでもきちんと摂取できているかが重要です。これは経口補水液でないと失われた電解質補充が十分出来ないからです。上記症状に該当することがなければ、慌てて病院に行く必要はありませんので安心してください。しかし、一つでも該当する症状があれば、急いで病院を受診してください。当救命救急センターは24時間、いつでも対応しています。

救命救急センター長 境田 康二

平成29年度 成果発表会を開催



平成29年12月6日（水）に成果発表会が開催され、年度当初に設定した目標に対する成果を部署ごとに披露しました。今年度は、肺がん患者の方の早期治療を目指して、関係部署と連携し、院内での遺伝子検査の導入に取り組み、遺伝子検査までにかかる期間を短縮した臨床病理・臨床検査科が最優秀賞を受賞しました。

平成29年度 募集概要

看護補助者(パート)・クラーク(パート)募集

- 資格／特になし
 - 時給／ 1,040円（看護補助者）、900円（クラーク）
- ※詳細は当院ホームページ（<http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>）をご覧ください。



外来担当医師一覧表

平成30年1月1日現在

		月	火	水	木	金	備考
内科	新患	[交替医]	中村(俊)/鹿野	下山 立志	多部田弘士	巴山紀子・廣石拓真	新患の(火)は第1・3・5中村(俊)、第2・4鹿野 消化器の(月)は第2・4・5 水本、第1・3関 消化器の※1は午前 ※2は午後 消化器の下段は原則、消化器内科からの予約患者のみ
	呼吸器	中村 祐之 藤田 哲雄	天野 寛之 中村 純	廣石拓真〔交替医〕 巴山 紀子	中村 祐之 中村 純	鹿野 幸平 天野 寛之	
	消化器	水本英明・関 厚佳 東郷聖子 ^{※1} /金子達哉 ^{※2}	安藤 健 関 厚佳	東郷 聖子 安藤 健 ^{※1} /石垣飛鳥 ^{※2}	金子 達哉 水本 英明	石垣 飛鳥 小林 照宗	
	代謝	岩岡 秀明	下山 立志	中村 俊介	下山 立志	岩岡 秀明	
	腫瘍			平野 聡		平野 聡	
心臓血管センター	循環器科 予約	稲垣 雅行 内山 貴史	福澤 茂・黒岩信行 沖野 晋一	内山貴史・稲垣雅行 岩田 曜	黒岩 信行 芝山納恵留・丘慎清	福澤 茂	午後1時30分から ※第2 高原 ※第1・3・4・5 茂木
	循環器科 新患	石橋 健太	黒岩信行・丘 慎清	芝山納恵留・内山貴史	関根有希子	岩田 曜・沖野晋一	
	心臓血管外科	[手術日]	高原善治・茂木健司	[手術日]		[手術日]	
緩和ケア内科				[交替医]	[交替医]		午前9:00～ 予約患者のみ
精神科	新患		宇田川雅彦	宇田川雅彦	榎原 雅代		新患は事前予約が必要 (電話も可)
	再来	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦 榎原雅代		
小児科		伊藤 祐大 伊賀 裕子	佐藤 純一 内山 薫	丹羽 淳子 〔交替医〕	木谷 豊 竹本 直輝	伊賀 裕子 坂井 美穂	
外科	消化器・一般	宮崎 彰成 吉岡 隆文	夏目 俊之 佐藤やよい	丸山 尚嗣 野手 洋雅	田中 元 貝沼 修	宮崎 彰成 松本 泰典	(月)松崎・青柳が隔週 (午前のみ)
	乳腺	松崎弘志・青柳智義	吉原ちさと	松崎 弘志 青柳 智義		松崎 弘志 青柳 智義	(火)丸山 午前のみ (水)吉原 午後のみ
	新患	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	
整形外科		[交替医] 秋本 浩二 〔手術日〕	池之上純男 高瀬 完 染谷 幸男	三村 雅也 鮫田 寛明 新保 純	[交替医] 〔手術日〕	[交替医] 〔手術日〕	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
形成外科		[手術日]	薬丸 洋秋	薬丸 洋秋	[手術日]	渡邊 浩志	
脳神経外科		内藤 博道 新美 淳 根本 文夫	[交替医] 〔手術日〕	畑山 和己 内藤 博道	安間芳秀/交替医 森脇 拓也 〔手術日〕	根本 文夫 畑山 和己	(月)根本、(水)内藤、(金)畑山は、 新患者のみ (木)安間は第1・3・5、 第2・4は交替医
呼吸器外科		一ノ瀬修二 荒牧 直	一ノ瀬修二 荒牧 直	[手術日]	一ノ瀬修二 木下 孔明 荒牧 直	[手術日]	
皮膚科		栗田 遼二 井関 梢	栗田 遼二 井関 梢 宮川 健彦	栗田 遼二 井関 梢	栗田 遼二 井関 梢 宮川 健彦	栗田 遼二 井関 梢	
泌尿器科		武田 英男 黄 和吉	佐藤 信夫 齋藤 心平	佐藤 信夫 〔手術日〕	佐藤 信夫 安藤 敬佑	佐藤 信夫 川端 慧	
産婦人科		斉藤 俊雄 佐々木直樹	大村 涼子 名古ゆり恵 〔手術日〕	斉藤 俊雄 〔交替医〕 〔手術日〕	名古ゆり恵 〔交替医〕	佐々木直樹 鈴木由梨奈 〔手術日〕	
眼科		小林 悠里 谷口 有子	松枝 美文 〔手術日〕	上原 七生 松枝 美文	小林 悠里 小林 晋二	小林 晋二 谷口 有子	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
耳鼻いんこう科		小林 皇一 兼坂 寛子	[手術日]	小林 皇一 兼坂 寛子	[交替医] 〔手術日〕	小林 皇一 木村健太郎	
放射線治療科		有賀 隆	有賀 隆	岩井 祐磨	小池 直義	有賀 隆	完全予約制
麻酔科		[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	午前9:00～11:00 予約患者のみ
歯科口腔外科		村野 彰行	喜田 晶洋	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	
特殊外来	女性専用(内科)			古池 織恵			予約患者のみ
	腎臓内科(内科)			梶原麻美子			午後1:30～ 予約患者のみ(電話も可)
	神経内科(内科)			能勢裕里江			午後1:30～ 予約患者のみ(電話も可)
	ステントグラフト外来(心外)		櫻井 学				午後1:30～
	ペースメーカー外来			[交替医]			午後1:00～
	小児循環器(小児)	佐藤 純一 派遣医師・竹本直輝	村社 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ (火)は第2・4
	小児神経(小児)				高梨潤一・牧野道子		午後 予約患者のみ 月1回
	小児腎臓(小児)				秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回
	小児アレルギー(小児)					下条 直樹	月1回 午前9:00～予約患者のみ
	小児外科(外科)				小松 秀吾		午前のみ (午後手術)
脳神経内科(脳神経外科)					東 美和	午前9:30～ 予約患者のみ	

担当医師は、状況により変更することがありますので、受診の際には当院のホームページ等でご確認ください。

※特殊外来の小児循環器、小児神経、小児腎臓、小児アレルギーの予約および予約変更は午後2時から4時の間に小児科外来へ電話してください。